

第 4 回  
市立夜間中学の設置に関する有識者等会議

議 事 録

日時：令和5年7月19日（水）13時30分開会

場所：ウインクあいち 1007 会議室

名古屋市教育委員会  
新しい学校づくり推進室

## 第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

- 1 会議名 第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議
- 2 日時 令和5年7月19日(水) 午後1時30分～午後3時40分
- 3 場所 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター) 1007 会議室
- 4 出席者 委員 岡田 敏之 座長  
椎名 渉子 委員  
森 純子 委員  
西川 陽祐 委員  
藤本 一人 委員  
森 義裕 委員  
大川 栄治 委員  
事務局 平松 博文  
大杉 周三  
佐村 明生  
塚本 寛幸  
山本 会紗
- 5 傍聴者数 0名
- 6 議題
  - ・会議のまとめ(公開)
  - ・その他(公開)
- 7 配付資料
  - ・市立夜間中学の設置に関する有識者等会議のまとめ(案)
  - ・夜間中学の開校に向けたスケジュール予定

8 議 事

発言者	内容
事務局	<p>ただ今より第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議を開会します。委員の皆さまには大変お忙しい中をご出席いただき、誠にありがとうございます。私は新しい学校づくり推進室の主任指導主事の杉野です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>初めにご報告させていただきます。本日、報道機関から冒頭部分の撮影の要請がございましたので、許可をいただきたいと存じますが、委員の皆さま、よろしいでしょうか。それではよろしくお願いいたします。</p> <p>—マスコミの撮影—</p> <p>ご協力ありがとうございます。</p> <p>なお、会議のご発言につきましては、後日、議事録を作成するために録音させていただいております。ご発言の際にはお手元のマイクの使用をお願いいたします。</p> <p>それでは、委員の皆さまに配布した資料について確認させていただきます。レジュメと委員・事務局一覧、「市立夜間中学の設置に関する有識者会議のまとめ（案）」、「夜間中学の開校に向けたスケジュール予定」となっております。</p> <p>さて、前回の会議では、目指す姿の実現に向けた学校づくりについてご提案申し上げ、さまざまなご意見を頂きました。第2回、第3回における意見を踏まえ、事務局案として「市立夜間中学の設置に関する有識者会議のまとめ（案）」を作成しました。今回は、この会議のまとめについてご検討いただきたいと思います。本日が最後の会議となります。忌憚のないご意見をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ここから進行を岡田敏之座長にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
岡田座長	<p>皆さん、こんにちは。お忙しいところ集まっていたいて、ありがとうございます。本日は、事務局からもありましたように最終回ということで、よろしくお願いいたします。</p> <p>早速、議事内容に入りたいと思っております。レジュメにありますように、1点目の市立夜間中学の設置に関する有識者等会議のまとめ（案）について、まずは事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>新しい学校づくり推進室長の平松です。よろしくお願いいたします。それでは「市立夜間中学の設置に関する有識者等会議のまとめ（案）」についてご説明させていただきます。まず、この資料のつくりについてご説明させていただきます。めくっていただいて、目次がございます。さらに1枚めくっていただくと「はじめに」ということで、この有識者等会議でご意見をいただくことになった経緯などについて記載しています。また、1ページからのローマ数字Ⅰ「名古屋市における市立夜間中学の設置について」と、3ページからのローマ数字Ⅱ「公立夜間中学とは」というところで、この会議の冒頭において議論を進めていくに当たり、皆さんに共通理解していただいた基本的な考え方について記載させていただきました。また、7ページのローマ数字Ⅲ「名古屋市が設置する市立夜間中学のめざす姿」では、市立夜間中学の枠組みなどについて整理してあります。さらに11ページからのⅣ「めざす姿の実現に向けた学校づくり」では、項目D「多様性を尊重した学校づくりのための取り組み」、項目E「安心して学べる学校教育の環境整備のための取り組み」についてまとめさせていただいたところです。それから、ページを送っていただきまして、16ページからのローマ数字Ⅴ「有識者等会議における主な意見」では、ご検討いただいた項目ごとに、皆さま方のご意見を整理させていただいたところです。</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>さらに、その次のページですけれども、当会議のまとめを概要版として裏表1枚にまとめさせていただきました。そして、その後ろですが、「おわりに」、そして、市立夜間中学アンケートの結果、委員の皆さま方の名簿、最後に会議実績を掲載させていただいております。</p> <p>それでは、前回からの修正箇所について確認させていただきたいと思ます。恐れ入りますが、戻っていただいて8ページをお願いします。こちらの8番「不登校になっている学齢生徒への支援」についてです。第2回、第3回でのご意見を踏まえ、こちらにあります資料のように、不登校になっている学齢生徒への支援について、「夜間中学で学ぶことを検討する」と表現を修正しております。また、今後検討するに当たって留意することについては、四角の枠の中のようにまとめさせていただきました。それ以外の部分については、言い回しなど多少の文言修正をさせていただいておりますが、大きく変更した箇所はございません。</p> <p>変更点などを含め以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。今、事務局から「市立夜間中学の設置に関する有識者等会議のまとめ(案)」について説明いただきましたが、ご質問、ご意見をいただきたいと思ます。ただ、ページ数がたくさんありますので、少しずつ確認していきたいと思ます。まず「はじめに」の部分について、ご質問、ご意見等はございますか。</p> <p>では、続いて1ページから2ページです。ローマ数字Ⅰの「名古屋市における市立夜間中学の設置について」の部分について、ご意見、ご質問はありますか。</p>
森純子委員	<p>県の教育・スポーツ振興財団の方で行っている生徒のことですが、1ページのその他のところに日本国籍11人とあるのですが、日本でずっと生活して日本で不登校だったという生徒は、実際は4人になります。あとはご結婚されて日本国籍を取られたり、あるいは親御さんが日本へ呼び寄せて日本国籍を取ったりという形で11人という内容になりますので、一応確認だけお願いします。</p>
岡田座長	<p>11人のうち7人は外国にルーツのある方々ということですね。</p>
森純子委員	<p>そうです。はい。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。他はよろしいですか。愛知県の夜間中学の設置予定場所もここに明記されていますが、またこの辺との連携も今後やっていただければと思ます。他はよろしいでしょうか。</p> <p>では、続きましてローマ数字Ⅱです。「公立夜間中学とは」ということで、3ページから6ページについてご質問、ご意見等はございますか。よろしいでしょうか。これも今までの夜間中学についての実態とか、説明とか、文科省の資料を中心にまとめていただいている内容だと思います。</p> <p>続いて、ローマ数字Ⅲ「名古屋市が設置する市立夜間中学のめざす姿」、7ページから10ページです。これについてご質問、ご意見等があればお願いします。</p>
藤本委員	<p>まず、8ページの8番「不登校になっている学齢生徒への支援」について、先ほどご説明がありましたように「検討」という言葉を入れていただいたということで、本当にありがとうございます。まずは検討からということですので、ぜひ、以前から言っているように、不登校全体の名古屋市の考え方をきちんと整理し、夜間で学ぶことについてきちんと検討していただけるといいかなと思ますので、よろしく願いいたします。</p> <p>そういう観点で言うと、「なお」以降は検討してから考えることであって、あえて書く必要があるのかなと思ます。さらに、下の四角囲みの中に</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>「検討にあたり留意すること」と書いてあるのですが、これが本当に検討に当たって留意する事項になるのかなど、読ませていただいてもすごく疑問に感じたので、もう一度ご検討いただけるといいかなと思います。</p> <p>例えば、検討に当たって留意する事項でいうと、一番はやはり生徒にとって安全で安心な学びの場になるような条件整備はどうすべきか、あるいは在籍校との連携をどうしていくのかとか、インターク時の生徒や保護者との面談はどうすべきなのかということが検討に当たっての留意事項、あるいは視点だと思えます。今ここに書かれていることは、ちょっとそこからは、ずれているのではないかと思うので、一度ご検討いただければと思います。以上です。</p>
岡田座長	事務局から何かありますか。
事務局	<p>藤本委員からのご指摘、ありがとうございます。まずは1点目、冒頭にいただきました「なお」以降の記載のところですか。「なお」の表現を残すことを考えて事務局案とさせていただきたいと思ひまして、とりわけ夜間中学における学齢生徒の学びの在り方としては、文科省の手引きの方でも、今ここで書いてあるように出席扱いをして原籍校に籍を残すというやり方と、夜間中学そのものを不登校特例校に位置付けるという形の2通りの考え方があることが示されております。今回、何回かこの会議の場で議論させていただく中で、不登校特例校の設置ということではなく、原籍校に籍を残してという議論の積み上げがありましたので、方向性としては出席扱いにすることからまず始めていくということを経験の成果として残させていただき趣旨で記述しております。</p> <p>それから、検討に当たり留意することについて、委員にご指摘いただいたとおり、①～③は受け入れをした後の具体的な運用の話ということで、そもそも受け入れるに当たっての前段階のところの注意事項であるとか、そういったところについて、委員にご指摘いただいたことはより加味していかなければならないことだと認識しておりますので、この辺はまたご指摘を踏まえて、事務局の方で最終的に修正させていただきような捉え方をしていきたいと考えております。</p> <p>今言っていた中で、生徒にとって安全・安心な学びの場となることは当然必要なことだと考えております。それから、在籍校との連携については、今ちょっと言葉足らずではございますけれども、①の中学校に対しての説明というところに学校の連携という趣旨を含めたつもりではございましたが、もう少し日常の情報交換という意味での連携ということも分かるような表現を加えることが必要だと考えていますので、総じて、今いただいたご意見を踏まえて少し修正させていただきたいと思ひます。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。実は三豊市の夜間中学では学齢期の子どもを受け入れています。私は「三豊市における夜間中学在り方検討委員会」の座長もさせていただいたのですけれども、現在その夜間中学に学齢期の子どもが2人入学して通ってきています。これはYouTubeのニュース動画にも載っていますが、そのうちの1人の子が顔出しをしてコメントしています。私はその子とも実際に対面で話をしたことがあるのですが、本当にすごく素直で明るくて、なぜこの子が不登校になっているのだろうと思うぐらい元気で、てきぱきと話します。そういう姿を見ていると、夜間中学も一つの選択肢としてあってほしいという思いがあります。香川県三豊市というと、県の西の方なのですけれども、その子は徳島から通ってきています。毎日、お母さんかお父さんに送り迎えしてもらっているのですが、その子の姿を見ていると、三豊市に夜間中学が、あって本当に良かったとつくづく思ひます。本当は徳島にあつたらもっといいのですけれども。そういう可能性も今後、選択肢とし</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>て残しておいていただきたいという思いがあります。</p> <p>今までの議論の中でもありましたが、名古屋市の不登校対策をこれからどうしていくかという全体像をまず描いた上でということはやはり必要だと思います。ですから、ここで「検討する」と書いていただいているのであれば、この四角のところは参考という形で、受け入れをする際に留意することとしてという捉え方でいいのではないかと思います。</p> <p>それと、前回、受け入れ体制も大切ですが、送り出す側の体制も大切ですよという提案をさせていただきました。ですから、②の「当該生徒の受入体制を整えた上で」というところは、「当該生徒の受入体制および在籍中学校の支援体制を整えた上で」。送り出す側も丸投げでは駄目だと思うのです。あくまで自分のところの生徒ですから、その子をどのように送り出して支援していくかということが大事です。</p> <p>それと、④として「当該生徒の在籍中学校との連携を十分に図る」。在籍校と夜間中学との連携を図るという文言を入れていただければありがたいと思います。もし受け入れる場合はということで、検討していただいた結果、そういう内容が必要ではないかなと思います。</p> <p>それに関連したことでも、他でも構いませんが、何かご意見がある方はお願いします。森委員、よろしいですか。PTAの立場で西川委員、いかがでしょうか。</p>
西川委員	<p>前にもお話ししたことの繰り返しになりますが、保護者としては、明日、わが子が不登校になったと考えます。今度夏休みを迎えて9月1日に自分の子どもが「学校に行きたくない」と言ったときに、こういった学校ができて選択肢が一つ増えるなら大変ありがたいことだと考えます。いかようにも読み取れる部分はあるかと思うのですが、子ども自身やその保護者の考え、願いで、ここで学びたいということであれば、ぜひ受け入れていただけるような含みをもたせた書き方かなと受け取っていますので、大変ありがたいことだと思っております。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。他、ご意見はございませんでしょうか。もしありましたら、また後でもご発言いただいたらと思います。</p> <p>続いて、IV「めざす姿の実現に向けた学校づくり」、11ページから15ページの内容について、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。</p>
森義裕委員	<p>12ページのキャリア教育の充実のところですが、昨日報道で、名古屋市が来年度から順次、全ての小中学校でキャリアタイムというものをつくるということがいきなり出ました。正直、学校現場には浸透していなかった、全然知らない人が多い中でいきなり報道が出たので、昨日いろいろところで混乱が起きたのですけれども、報道によると、総合的な学習の時間や社会の授業など、授業の中でキャリアタイムというものを今後やっていくぞと。キャリアタイム自体はとてもいいことで推進するべきものだと思うのですが、これを夜間中学の中でも想定しているのか、今、市教委の考えがあれば教えてほしいです。これは地元企業や大学との連携をしていく拠点となるセンターがあるみたいなことを聞いていますので、その想定を今の段階ではどう考えているか教えてもらえればと思います。</p>
岡田座長	事務局、お願いします。
事務局	<p>今、森委員から、キャリア教育についての考え方ということでご意見いただきました。まず、名古屋市教育委員会としてのこれからのキャリア教育の在り方について、まさしく今日、第1回の有識者会議が開かれていて、いろいろと詰められていくところですので、本市としてのキャリア教育の進め方を十分踏まえた上で、夜間中学と関連性をもたせていくのかということを考えていければいけないと思っております。</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>この夜間中学の方針案のところで、皆さま方に議論していただく俎上としてキャリア教育を挙げた我々の思いとしては、実際に夜間中学に通われる生徒さんの背景を考えますと、既に学齢を超過された方が何らかの形で社会とつながりをもちながら生きていく、あるいは外国籍の方がこれから日本で、この国で生きていくための力を付けていくということが非常に重要な要素であり、目前にキャリア支援が関わってくる部分在实际のところもあるかと思っております、そういった意味で、卒業後の進路という意味合いでも支援していくという要素が強かったと考えております。そういう意味では、学齢期の子もたちがこれからキャリア形成を長いスパンで考えていくということとは、意味合いが若干違うところがスタート地点としてはあったのかと思っております。キャリアナビゲーターを活用した将来の進路の支援など、卒業後に社会で生きていく部分と直結する支援ということで、キャリア教育全体、ライフキャリアという捉え方よりは、もう少し身近なところから取り組んでいきたいという思いでここに書かせていただいたところがあります。</p> <p>今後の話として、市として全体のキャリア教育の考え方を整理していく中で、この夜間中学での学びにおけるキャリア教育が有意な場面も必ず出てくると思っており、この動きについては市全体の整理を待ちながらと思っておりますので、今申し上げた大まかに二段構えで考えていくというのが今の立ち位置かなと思っております。</p>
森義裕委員	つまり、昨日の報道内容との関連性は今後検討していくということによろしいですか。
事務局	縷々申し上げましたが、その通りです。
岡田座長	ありがとうございます。他はいかがでしょうか。
藤本委員	<p>まとめに反映していただかなくても結構ですが、あえてちょっと触れさせていただくと、この夜間中学では、やはり日本語指導がかなり大きな課題になってくるということが想定されます。現行の昼間の中学校ですら、外国から来た子が、例えば初期日本語教育を受けるに当たって何か月待ちという現状が実際にある。こういう現状を踏まえると、最初の方の会議でも申し上げたとおり、やはりこれは市全体として、福祉とも連携しながら、いろいろな場面で日本語を学ぶ場が必要になってくるだろうと思います。先ほど申し上げたように、まとめからちょっと切り離れた話になるのかもしれませんが、それを考えたときに、せっかくこれを進めるのであれば、NPOとも連携するとか、初期日本語教育もやるというのであれば、この夜間中学をつくることをきっかけにしてもいいので、より多くのそういった支援者、あるいは福祉との連携をどんどん広げていただきたい。言語で困っている外国の方がたくさんみえるので、名古屋市としても考えていくきっかけになるかなと思うので、ぜひ力強い取り組みをお願いしたいということで、意見として述べさせていただきました。</p>
岡田座長	ありがとうございます。日本語指導の内容で、椎名委員、何かありますか。
椎名委員	<p>今、藤本委員からお話があったように、確かにこの中で日本語指導のなかで重きを置かなければいけない一つだと思いますので、どのような連携が可能かというところを現実的に検討していくことが求められると思います。例えば、今、名古屋市におきましてオンラインでの日本語教室も試験的に運用されており、うまく軌道に乗って申込者が多いという話を聞いたことがあります。ただ、オンラインですと気軽に参加できる分、継続性が少し弱い部分もあるようです。いろいろな課題があるようなのですが、そのような名古屋市の取り組みと連携して、オンラインの面でも、日本語指導の可能性を幅広い視点で探っていくことが必要かと思っております。</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
岡田座長	ありがとうございます。日本語指導においても、関係団体、支援団体と今後連携していかなければならないと思います。他はいかがでしょうか。
森義裕委員	では、15ページに関連して、Gの3「教職員・市民への広報」と書いてあるところです。その4行を見ていくと、市民への広報の方法は書いてあるのですが、教職員に対する具体的な方法がどこにも書いていない気がします。多分、今、小中特別支援学校にいる人が夜間中学に勤務することになると思うので、先ほどのキャリアの話ではないですが、現場が知らないのにいきなり出るということだけは絶対避けていただきたいので、教職員の具体が分かるように、これはこの後のスケジュールのところでお話が出るかもしれませんが、ぜひ一般に出す前に、現在勤めている教職員に対して、この夜間中学がどういった目的でどういった経緯で設立されるのかということを中心にまとめたものや、やはり写真とかロゴがあるとイメージしやすいと思うので、例えば他市の夜間中学はこんな感じだよというような。もしくは、今、財団でやられているような雰囲気だとか、それを見るだけでもかなりイメージができると思うのです。報道でいきなり出ると、問い合わせがあるのはやはり学校です。担任が聞かれて、そこで「知りません」ではちょっと良くないので、その辺の教職員への広報を、スケジュールも含めてもうちょっと明確にここで示していただけるといいかなと思いましたので、お願いします。
岡田座長	実際に勤めるのは先生方ですから、夜間中学がどんなものか分からなかったらすごく不安ですよ。
森義裕委員	はい。行きたいかどうかの判断もできないです。
岡田座長	そうですね。はい。今、画像というお話もあったので、それも活用しながら、教職員への研修会をお願いします。
森義裕委員	研修でなくても、紹介が見られるものを。全員がマストで見るとするのは難しいと思うので、興味のある人が見られるようにしてほしいです。
岡田座長	何か動画とかを用意してもらってということですか？
森義裕委員	どういう形でも、パンフレットでも何でもいいので、教職員が分かるものを、世に出る前にきちんと教職員に知らせてもらえればよいです。
岡田座長	なるほど。リーフレットとか、オンデマンドの動画でもいいですし。そういうものを作る場合は協力させていただきますので教えてください。教職員への広報についても、もう少し具体的に書いていただければということです。他はいかがでしょうか。
藤本委員	14ページの研修体制ですが、僕からすると、令和7年度開校というのは、かなりハイスピードで物事が進むのだろうということが予想されます。当然、教育課程も特別なものを組み、それに当たって教員は個々の多様性に応じた指導をしていかなければならないので、実際に現場で勤務する教職員は、相当な研修と相当な準備を積んでいく必要があるのかなと思っています。そうすると、現状、令和5年度で、来年6年度、どのあたりで教職員にそういったことをきちんと伝えるか。名古屋市全体での広報で一定の理解は進むかもしれませんが、実際に勤務する教職員には、我々からすると、できるだけ早くそれは伝えてあげたいし、それに伴った研修をさせてあげたいし、逆に言うと、そういう体制が整って初めて子どもが安心して通える場と言えるのではないかという気もするので、今後進めていく中で、そのあたりも早めに進めていただけるといいのかなと思います。 ただし、教員の勤務体系や人事異動の関係からすると、なかなかそう早くは難しいのかなということも十分承知しているので、だとすると、どういう形でそこをクリアしていくかということは、やはりこれを設置する側の教育委員会でしっかり考えていただきたい。これもまとめに反映されなくても全

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>然構いませんが、かなり大きな問題だと思うのです。</p> <p>それから、もう一つ加えて言うと、先ほどの子どもが安心してという面です。子どもと保護者、入学希望者の面談のスタート時期も、ある程度早い時期からやってあげて、子どもたちが通えるステップを踏んであげてほしいし、個々の特性をきちんと事前に理解した上で、新しくつくる特別な教育課程とその子の指導・支援の在り方を4月の開校当初にもって教育に臨んでいく。そういう体制が本当にこの2年間、もう1年半を切るところでできるのかと非常に危惧しているの、そのあたりはきちんと教育委員会の方で準備段階から詰めていただけたらありがたいと思います。</p>
岡田座長	<p>実際に勤めていただく先生がいつ決まるかということにもかかってくると思うのですが、来年度、準備室というものをつくれるのですか。そういう計画はありますか。</p>
大川委員	<p>名古屋市の場合、年度末に教職員の人事異動が行われますので、教員に内示されるのは3月の早くて中旬です。大体、小学校の卒業式が終わる3月の17日とか18日とか、そのあたりが多いのですが、夜間中学に令和7年4月から勤務する教員についても恐らく特例は認められず、例えばその人にだけ3か月ぐらい前から「あなたは夜間中学に異動するので、こういう研修をしますよ」と言うことはなかなかしづらいのだろうと思います。一方で、理想としては、研修によってシームレスに異動・移行していきけるのが一番いいのだろうなど。令和7年3月に「あなたは勤務ね、研修ね」というふうに言われる人はなるべく少なくしたいという思いがありながら、委員会の仕組みとして、なかなか難しい面はあるのかもしれないとは思いますが、おっしゃられることはよく分かります。結局これも今までにない取り組みですが、一つ参考になるのは高校の夜間定時制です。そこも同じように、昼間から夜間への異動という方もみえますので、そういった部分も参考にしながら、以前この会議の中で岡田座長から言われた、本人が希望しないのに勤務することのないようにする仕組みももちろん大事だと思いますし、それをどうやって整えていくか。所管は教職員課になりますけれども、新しい学校づくり推進部がここの直接の担当部署ですけれども、我々でやることは本当に限られていまして、それぞれの所管課があるので、当然のことながら庁内で連絡会議を何回も催しながらやっていますので、今ここで出た意見もしっかり伝えながら、勤務する教員の側に立っても、それから教育を受ける生徒の側に立っても、やはり今おっしゃられたような、ある程度研修なりをしっかり積んで勤務できることが大切かなと思いますので、ルール上はそういうことがありますけれども、考えていくべきことだろうとは思っています。</p> <p>研修をどうやっていくかということももちろんそうですし、それから準備室については、他都市へ視察に行きますと、開設準備室というのをつくられて、例えば準備室で勤務していた方がそのまま管理職になることもあったりして、準備室のときに入学希望者の面接などをするものですから、面接した人が学校に次の年に勤務したりするようなことも例としてはあると聞いています。本市で同じようになるかどうかは別ですし、室の開設については市全体の人員要求に関わることでありますが、我々としては、この後のスケジュールを並べていきますと、1年半という短期間でやるにはなかなか大変なスケジュールであり、やはりある程度の人員がいないとできないということは所管課として重々承知していますので、ある程度の体制なり、異動する教職員のことについても考えていくべきだとは思っています。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。令和7年3月にここの学校勤務を命じられて、「すぐ行け」と。全員がそれであると学校も混乱するのではないかなと。犠牲になるのは生徒さんではないかなと思うのです。なので、少なくとも管理</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>職および核になる先生を準備室として令和6年度から配置していただいて、その中で面接や視察などをしていただいて、夜間中学とはどんなものなのかということを理解していただいた中で体制をつくっていくことが、やはり求められるのではないかと思います。</p>
西川委員	<p>保護者の立場、また、民間教育をやっている立場からすると、学校とはそういうものかと驚きました。弊社は1教室で保育園から大学受験までやっているのですが、当然1人の先生では見られないので、スタッフ50人ぐらいで見るという体制です。社員20人、いわゆる学校の先生に当たるところは20人ぐらいです。学校と同じように4月に人事異動があるので、3月まで高校3年生相手に大学受験の指導をしていたスタッフが、4月1日付で2歳児の保育園をやるといふ会社です。僕は人事異動を発表する側ですが、3月に発表していたら、当然、今の森先生たちの反応どおりのことが起きるので、弊社では1月に発表するようにしています。その代わり、保護者や今教えている子どもたちに混乱が起きないように、一切口外しないことという約束をしたうえで、やはり準備は要るよね、心構えが要るよねということで1月に発表していますが、それでも遅いと現場からは言われます。</p> <p>遅いと準備ができないので、今、極端に高3生から2歳児への人事異動という例を出しましたけれども、逆にそういった思い切った人事異動を、する側もしづらくなります。やはり混乱を少なくするために、高校生を見ていた先生は中学生ぐらいにとどめておこうという、人事異動させる側への弊害も出ていていると感じています。どれぐらいのタイミングが適切なのかというのは、われわれのように自由にできるところでも悩むところで、そこにもっといろいろな諸問題が伴ってくる教育委員会、教職員課等というのはお察しします。ただ、先ほど座長がおっしゃられたように、やはりその弊害は現場の先生に行くし、それがひいては子どもたちに行くので、できるだけ早い準備をお願いします。</p> <p>少し視点を変えて保護者の目線からすると、開校のスケジュールのところで、保護者向けの説明会や面接などが順番に行われると思うのですが、ここで、4月からいらっしゃる先生のお顔が拝見できる、その先生の教育方針まではいかないとしても、ごあいさつが聞けるというのは、安心して子どもを預けるという視点に立ったときに一番大きいことではないかと考えます。今回は、そもそもこのスケジュール感で新しい学校をつくるというところから特別なことが始まっているので、できれば令和7年3月を待たずして何かできる方法はないか知恵を絞っていただけると大変いいなと要望を含めて思います。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。このような要望がこの有識者等会議から出ていることを教職員課にも伝えていただいて。僕は準備室設置が一番理想的だなと思うのですが、そういう準備をする期間も。特に外国籍の人や日本語指導が必要な人、不登校を経験している人、高齢者、いろいろな人が来るので、ましては不登校の学齢期の子どもも受け入れるという体制をつくるならば、十分な準備体制をしていかなければ、やはりしわ寄せが来るのは生徒さんですから、生徒主体の学校づくりということを考えれば、そういう準備期間を十分に取っていただくことが必要だと思います。この会議からの要望ということで、これは強く伝えていただけたらと思います。</p>
藤本委員	<p>これだけ皆さん、ここについては心配している。やはり子どもが混乱する形が見えてしまうので、事前に教育課程を組むところから本当はいた方がいいだろうし、保護者の面談や説明のときにも顔を見せられる状態が理想かなと思います。今までの例でいうと、学校を開設するときの開設事務で併任をかけた例は管理職ではあると思うけれども、それを一般教員までやれるかどうか</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	かは僕には分からない。しかし、これだけの心配事だということをも十分受け止めていただいて、何とか安心して開校できるように進めていただきたいと思います。
岡田座長	ありがとうございます。これに関連して、またはそれ以外でもあればご意見をお願いします。
森純子委員	私の立場で言っているのかどうかはちょっと疑問ですが、やはり夜間に勤めて、条件が異なる生徒たちと関わるというのは、先生たちもいろいろな覚悟が必要になってくると思うのです。そのために研修をしていくのですが、やはり生徒たちを目の前にする前に、ある程度、先生方に覚悟と気持ちを固めていただけるといいと思っています。いろいろ難しいとは思いますが、例えば社会教育主事になる方は、研修を受けるけれども、受けたからといって全員がすぐになるわけではないではないですよ。ですから、ある程度そういう形でできたら、半年とか1年前ぐらいに「こういうふうですよ」と、それこそビデオだったりお話だったりという研修でも、数回でもいいと思うのですが、そういうところへ行くかもしれないのだなという気持ちを徐々につくってもらえると、4月からスムーズにいくのではないかとちょっと思いました。
岡田座長	心の準備も必要だということですね。他はいかがでしょうか。
大川委員	確かに、覚悟というか、理想は働きたいと思えるようになるとうい。
森義裕委員	そうですね。ただ、夜間中学について、分からないから選びようがない。
大川委員	<p>そうですね。だからそういう意味では、森委員が言われたように、まず広報して、こういう学校ができますよと。校長先生方はさすがにいろいろな情報を教育委員会が流しますから、ある程度浸透しますけれども、実際、現場の一人一人の先生方を見ると、「夜間中学って何?」「いつできるの?」ということがまだピンときていない方がかなりみえるので、そういう意味では広報をしっかりして、こういう学校ができます、そこについてはこういう勤務になります、昼間とは違って今までと生活は変わりますけれども、こういうやりがいがあって、こういう新しいことに携われる教育で、やってみませんかというようなことを知らせた上で、今までの名古屋市の人事異動のルールでいえば手挙げ式はあまりないのですけれども、今までにない取り組みなので、そういった要素があってもいいのかもしれないし、先ほどおっしゃられた説明会も、例えば説明なり広報していく中で、教員向けの説明会もあってもいいのかもしれない。そうすると、そこに来る人はある程度そういった気持ちのある方ですから、そういう方に向けて、こういうことだということの説明をしておいて、そこから勤務する方がみえるかどうかは別として、それは一定、その方に向けての研修にもなるし、森委員がおっしゃられた覚悟ですか。覚悟というか、本人が望んで来られるというのが一番いい形になりますので、そうすると、まさに人事上も希望と納得の人事ということになりますので、説明していく中での一つの手段として検討するのもありかなということは思っております。</p> <p>それから、藤本委員からご指摘がありました開設事務取扱は、実際に学校をつくるに当たってはいろいろな手続きをしていかなければいけないので、学校が新しくできるときに管理職だけ少し早めに発表して、その事務的なことをかなりなされます。通例、義務教育の小中学校の新設の場合ですと、例えば4月新設のところだと、前の年の12月か1月ぐらい、3～4か月ぐらい前に発表されることが多いのですけれども、ちょっと特殊な例として、来年の4月に、今の若宮商業高等学校に高等特別支援学校が併設する形でできます。名古屋で高等特別支援学校をつくるのは初めてなものですから、この開設事務取扱は3～4カ月前ではなくて1年前に発表されています。そ</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>の例に従って、ある程度、管理職だけでも早く任命できれば、今話題になっている準備ができるのかなと思っておりますので、そのあたりは先ほどの要望も含めて委員会内で協議していきたいと思っています。</p>
岡田座長	<p>今言われた高等特別支援学校と同様、新しい学校づくりだと思いますので、できれば1年前から、管理職の事務取扱だけでなく、核になる先生にも準備室に入っていただきたい。生徒を迎えるための準備というのは事務的なことだけではなくて、体制づくりなども必要だと思うので、それも含めて具体的な準備をしていただけたらありがたいと思います。</p>
森義裕委員	<p>今の開設事務についてですけれども、当該校の校長という肩書ではなくて開設事務ということが故にいろいろな工事上の手続きが進まないということが、これまでに幾つかあったのです。そのときの課題が、多分、学校整備課でまともまっているのか、どこでまともまっているのか分からないですけれども、その声が必ず伝わっていますので、それを整理していただいて、そのときの課題と同じことがこの夜間中学の開設のときに起きないような形にしてもらえるといいかなと思います。そこはまた委員会内のことになりましても、調べてもらうといいかなと思います。例えば、電話線が引けないなど、何かいろいろなことがあったと聞いています。</p>
岡田座長	<p>今までの経験も生かしてということですね。</p>
森義裕委員	<p>そうですね。</p>
岡田座長	<p>名古屋特有の事情もあるかと思いますが、その辺も鑑みて準備をしっかりをお願いしたいなというところですね。他はいいですか。 あと、私の方から何点か確認をお願いしたいのですけれども、11ページのC-④、学び直しの実現のところ、「必要に応じて下位の学年の学習内容の学び直しにも対応する」となっていますが、下位の学年ということは、小学校の内容も含むという理解でいいですね。</p>
事務局	<p>はい。岡田座長のご指摘のとおりです。</p>
岡田座長	<p>はい、ありがとうございます。それと13ページの学校給食について、後ろの方に「なお、費用負担のあり方については、今後検討する」となっていますが、費用負担ということは、就学援助に類する支援の導入も含めるということで理解しておけばよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい。公的支援のところ、就学援助に類する経済的支援の実施についても書いてありますので、今、座長がおっしゃった給食費も含めて、就学援助に類する経済的支援の在り方についても所管課と相談しているところです。</p>
岡田座長	<p>あと、15ページの最後、市民への広報について、今日は校名を考えてきてくれということをおわれわれも言われているのですけれども、校歌について、例えば札幌市の例では校歌も上手に利用しながら広報されているのですけれども、彼女は実際に夜間中学校に出向いて、その生徒さんの学びを何回も見ながら、その生徒さんの思いを聴き取りながら、それを詩に載せて曲を作ってくれたようです。あの曲を1回聴いてみてください。何回聴いても涙が出てきます。本当に生徒さんの心情を表した素晴らしい曲になっていると思います。名古屋市にも多才な方がいらっしゃると思いますので、そういう方を活用して校歌をつくっていただき、それをまた広報することによって市民の皆さんの知るところになるのではないかと思います。 では、続いてVです。「有識者等会議における主な意見」、16ページから19ページについてご意見、ご質問はございますか。先ほど森委員から教職員への周知というご意見が出ていましたので、これも19ページのその他の取り組みの中に加えていただければと思います。あと、市民や入学希望者に対する周知も同様です。</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
椎名委員	<p>今の教職員への周知に係る部分ですが、例えば教職員の方への説明会で、今、他県でやられている夜間中学の先生をお招きしたりして、説明会の時点で連携し、実際に働いていらっしゃる先生からお話を聞くということができれば仕事内容をより具体的にイメージしやすくなると思います。人事決定後でもいいのかもしれないですけれども、周知の段階で説明会を開くと、そこへ参加した人は夜間中学での勤務を望んでいるという前提があるとすると、その段階で、もう既に働いている先生をお呼びしてお話を聞くといった早い段階からの連携も効果的かと思いました。</p>
岡田座長	<p>実際に夜間中学に勤務されている先生からいろいろ伺うというのも大事だと思います。そういう方を紹介してくれというのだったら、おっしゃってくれば紹介させていただきますので、また言ってください。</p>
森純子委員	<p>多様性への対応ということで、今、財団に来ている生徒も、先ほどもお話ししたように、ほとんどが外国由来の生徒だったり外国の生徒だったりします。そうしたときに、語学支援の方が31人に対して2人ずつ授業のときには付くのですけれども、なかなか全員にはうまく対応できません。中には「分かりません」とか「先生、もう一度お願いします」と言える生徒もいますが、生徒の中には何も言えずに、分からないまま進んでいってしまうこともあります。私たちがプリントなどをできているかどうか見て回るのですけれども、問題や、設問が難しくて分からないのか、言っている意味とか言葉が分からないのか、私たちが当たり前に使っているような言葉が本当に通じないことがあるので、やはり語学支援の人とか、生徒の学びを支援できる人員が充実しているといいと思います。</p>
大川委員	<p>まさにおっしゃるとおりだと思っていますし、この会議でもかなり話題に出しましたが、いわゆる市の予算で配置する職員だけでは恐らく難しいと思いますので、先ほどから出ておりますように、いろいろなNPO法人の方とか、あるいはボランティア的に関わっていただく方に助けていただくことが必要だろうと思っています。そういう意味では、今回委員になられた椎名委員にも、今後もぜひいろいろなところを紹介いただきながら、実際にあまり準備の時間がないものですから、この有機者等会議が終わって基本方針が出たあたりからすぐに動きだしてということを考えています。</p> <p>それから、先ほどの準備のことになりますけれども、やはり他の自治体、札幌市に行ったときに聞きますと、開設のときにいろいろなことをとにかく準備されたという中で、いろいろな分野のお助けいただける方、ボランティアとかNPO法人の方をどう確保するかということがあったということです。人と人とのことですので、助けていただく方も、この人に頼まれたからやるのだとか、やはりそういうことが基本になります。そういう意味でも、開設の中心になる方が管理職になる方が、実際に助けていただいて一緒にやっていた方と折衝しながら、「お願いします」「分かりました」という説明をして、令和7年4月からいきなり始めるわけにはいきませんので、その前段階で準備しておく。生徒が来だしたときにはもう稼働できるというのが理想なので、そうなるためには、令和6年度中に様々な依頼なりをしておかなければいけないし、その前提として探さなければいけないということがありますので、かなりここは大事なことだろうと思っています。</p> <p>あとは、たびたび出てきますICTですけれども、オンラインだけではなくて、今、例えば翻訳機能などもスマホ等に入っていますし、それからポケットブックなどの商品もあります。これらはかなり有効なのでしょうか。</p>
椎名委員	<p>はい。今の翻訳機のことですが、大学に非漢字圏から来ている留学生がいて、一般の専門授業とかを受けています。日本語能力検定でいうと3級、4級レベルで、専門的な授業を日本語の音声だけで聞くというのは、なかなか</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>まだ難しい段階にある学生です。授業で配られる資料も、各科目の担当教員が作っているのですが、クラスの中に入っているたった3人ぐらいの(外国人)履修者のための対応として、たとえば資料の全部の文字にふりがなを振るといのは、教員も物理的に難しい場合が多いです。そのような際、留学生は、スマートフォンでポケット翻訳のようなものを随時所持して活用しています。写真を撮れば一瞬で文の大意は取れるレベルのアプリケーションです。そうすると、授業で配られたプリントをそのアプリケーションを通して翻訳されたものを見れば、大意を掴めます。あとは教員の話や音声言語で聞いて、どういう内容かはつかめてくるということで、授業の助けにはなっているそうです。日本語が母語ではない学生の場合、日本語の学習と教科の学習という2つの側面がありますが、教科の内容を学習するときには、必要に応じてそういった対応もすれば、乗り越えられる部分もいろいろあるのかと思いました。</p>
岡田座長	<p>では、その辺の工夫もやっていただけたらいいだろうということですね。他はいかがでしょうか。はい、お願いします。</p>
椎名委員	<p>続けてすみません。先ほどの多様性のところで森先生がおっしゃられた、何を言っているかという理解と、内容自体の理解とか、そういった問題はとても重要だと思います。どういうところが課題になってくるのかというのを絞り込んでいく必要があると思うのですが、例えばアンケート結果で回答者が多かったネパールやフィリピンといった国籍の方々だと非漢字圏になりますので、課題としては漢字の問題がもちろんあります。母語話者の場合は小学校までに6000字ぐらい学習した上での中学校の勉強になるのと思いますので、まず大きいのは漢字の問題と言えます。そこも先ほど述べた翻訳アプリケーション等による内容理解の助けを用いて漢字の学習を効率的に行える可能性も探る必要があると思います。</p> <p>二つ目として、先ほどのお話と関わるのですが、日常言語と学習言語という違いの問題があって、やはり日常言語というのはbasic interpersonal communication skills (B I C S)と言われたりして、日常生活では普通にコミュニケーションができる。「それを取って」と言ったら、現場指示的なことはジェスチャーや文脈があるからすぐ理解できるのですが、教科書の中の文章で「それは」といったときの「それ」が一体何を指すのかということまでの理解はなかなか難しく、学校での学習というのは学習言語能力、cognitive academic language proficiency (C A L P)の部分、つまり言語をどう操作するかというような能力が求められます。その部分にどのようにアプローチしていくか、どのような支援が必要かということになってくると思います。例えば母語でも、やはりC A L Pが未発達の段階で日本語の習得をしなければいけないとなると、生徒も非常に混乱してくる段階があると思うので、そのようなところにもどのように支援体制をもっていくか。もちろん翻訳もそうですし、あとはリライト教材ですとか、何か補助になるような支援の在り方というか、どういう段階でどんな支援が必要かみたいなところの整理が、今後、多様性への対応というところでさらに具体化していくことが求められると思いました。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。日本語指導もそうですし、それから不登校を経験した生徒も入ってきますから、どういう支援が必要かということや一人一人の生徒のアセスメントをしていかなければいけない。夜間中学の生徒については本当に一人一人、違うニーズをもっていると思います。なので、一人一人、丁寧にアセスメントして、どういう支援が必要か、どういうニーズがあるかということや分析していかなければならないと思います。特に言語については専門的な知識も要すると思いますし、当然、心理面についても専門的な</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>知識が要りますから、その辺も丁寧に分析していく必要があると思います。他はいかがでしょうか。</p> <p>では、続いて、有識者等会議のまとめの概要版です。2ページにわたってまとめていただいていますけれども、ざっと目を通していただいて、ご意見、ご質問があったらお願いします。ここは今ずっと確認してきた内容を簡単にまとめていただいたものなので、今意見が出てきた内容もここに反映していただければと思います。</p> <p>では、最後に「おわりに」について、これもざっと目を通していただいてご意見、ご質問をお願いします。</p>
西川委員	<p>「おわりに」の最初の3行の一文なのですが、名古屋市として意見を述べてきたというのは、僕からするとちょっと違和感があります。最後に有識者会議として名古屋市教育委員会に「切に願います」という立て付けだと思うので、最初の「名古屋市として意見を述べてきました」というのは何か、私たちは？という感じがします。それが1点と、「教育機会確保法以降」というのは、成立以降とかそんな感じの文言が必要では。趣旨としてはそういう意味だと思うので、修正をお願いします。</p>
岡田座長	<p>最初の出だしは確かに違和感がありますね。その辺、修正をお願いします。</p>
事務局	<p>意図としては、名古屋市として、過去に、戦後間もない時期に夜間中学があった時期があったので、教育機会確保法以降、本市として初めて設置する夜間中学の目指す姿ということで、係る文が違っているところがあるので、修正します。</p>
岡田座長	<p>分かりました。この「おわりに」について、他はいいですか。あと、全体を通してよろしいですか。</p> <p>それでは、確認ですが、特にご意見が出てきたのが8ページの8番、不登校になっている学齢生徒への支援です。藤本委員からご指摘があったのですが、それでも、「検討」という文言に修正しているのですけれども、この中で「受入の際は」というのは、受け入れをする際に留意することの内容で、参考という形でまとめていただけたらいいかということでした。そういうことでいいですね。あと、②に文言を加えていただく。それと、④で在籍校との連携を図るということも加えていただくということで、お願いします。</p> <p>あと、教職員への周知ということで、これは15ページですね。教職員・市民への広報の中で、教職員の内容について、もう少し触れていただきたい。これはいいですか。</p>
事務局	<p>そうですね。15ページのところで、市民への広報のことしか書いていませんでしたので、教員への周知ということも文章の中に入れさせていただきます。</p>
岡田座長	<p>あと、議論になっていた準備室等のことについて、今後のスケジュールにも関わってくると思いますが、準備体制をしっかりとしていくことですよ。準備室の開設も含めて、事務取扱も当然ですがけれども、実際にそこに勤務する教職員の準備体制をしっかりと行っていくということも内容に加えていただければありがたいと思います。</p>
事務局	<p>はい。今ご指摘いただいておりますところで、今回、有識者会議での意見ということでご確認いただいた部分もございます。具体的には、16ページ以降の有識者等会議における主な意見の18ページ目、Fの設置・運営上の取り組みのところ、開設に向けての準備体制を十分取る必要があることをご意見として承ったということで、記載の方を検討させていただきたいと思えます。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。書き加えていただく内容や修正する内容は以上で</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	よかったですか。はい。では、当会議のまとめとして、以上の修正・追加を確認させていただきます。
森義裕委員	あと1個、自分が途中で言ったキャリアタイム等の検討を今後していくというのがあったので、そこもまたお願いします。
岡田座長	はい。キャリア対応との関連付けですか。
森義裕委員	関連というか、今後検討していくということだったので、そこも同じく入っているかなと思います。
事務局	意見のところでもよかったですか。
森義裕委員	意見のところでもいいです。今の昼間の小中特別支援学校はキャリア推進センターで企業連携や大学連携ができるメニューが今後与えられるというのを報道で見たのですけれども、それを夜間でもちゃんと利用できるのかというようなところ、今後検討ということだったので、それも書いてもらいたいと思います。
岡田座長	キャリアタイムの活用ですか。
森義裕委員	そうですね。要は、ここに書いてあるキャリア教育と、昨日新聞で出たキャリアタイムは別のものというご説明だったので、そこをちょっと整理した方がいいのではないかなと。
岡田座長	では、12ページのキャリア教育の充実の中に加えていただければいいということですね。
森義裕委員	それでもいいですし、その他の取り組みのところでも構いません。
事務局	今、森委員におっしゃっていただいたのは、18ページにかけてのところですね。17ページから18ページにかけてのDのところ、この夜間中学におけるキャリア教育の在り方については、市全体のキャリア教育の推進と連携を取りながら進めていくということを書かせていただきます。
森義裕委員	そうですね。はい。それでいいと思います。
岡田座長	他はいかがですか。以上でよろしいですか。 それでは、レジュメの2のその他について、事務局より何かありますか。
事務局	ご議論ありがとうございました。それでは、「2 その他」ということで、お手元に別ペーパーで「夜間中学の開校に向けたスケジュール予定」という資料を配っておりますので、こちらについて触れさせていただきたいと思っております。今後の流れを全てここに書き切れているわけではありませんけれども、主なスケジュールということで記載させていただきました。今回、この第4回の最後の会議で方針案についてご議論いただいたところですが、その後、教育委員会事務局の方で取りまとめた基本方針案を令和5年11月に公表、併せてパブリックコメントで市民のご意見を伺っていくことを考えております。また、このパブリックコメントの後、12月を目途に、市民意見も踏まえ基本方針として確定していく。具体的には教育委員会の会議の方に付議して決めていく流れになると考えております。それから、年度が明けて令和6年4月から生徒募集の広報を開始していくことを考えておりますので、この表には記載していませんけれども、令和5年度末、3月には議会の方にお諮りして、条例を改正して、学校名も確定していくということで、令和6年2月の議会の方で条例改正という手続きを考えています。 戻りまして、令和6年6月頃から地域の方へも少し具体化した説明を、地域の理解のためにもしてまいりたいと考えています。併せて入学希望者への説明を行っていくということで、この会議でのご議論を踏まえ、入学希望者への丁寧なヒアリングといえますか、意向を聞き取るということで、複数回お聞きすることも想定して、早めに入学者への説明会を始めていきたいと考えております。具体的には8月頃からです、入学希望者の面接なども始めていきたいと考えております。また、令和7年1月ごろに地域説明会と書か

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>せていただいております。地域の方のご理解も非常に大事な要素になってきますので、地域説明会を複数回実施していきながら地域理解を図りたいと思っています。こうしたことを踏まえ、令和7年4月に開校ということで考えております。</p> <p>学校名については、また後ほどご議論させていただきたいと思っておりますけれども、基本的には学校名の方も公募できたらと考えておりまして、段取りとしては、令和5年11月に基本方針を出していきながら、学校名の候補の公募をかけていければということも事務局としては検討させていただいている状況です。以上です。</p>
<p>岡田座長</p>	<p>ありがとうございます。今、事務局から夜間中学の開校に向けたスケジュールについて説明いただきました。ご質問、ご意見はありますか。それでは、全体を通してご質問、ご意見はいかがでしょうか。</p> <p>では、最後になりますけれども、今日がこの会議の最終回です。委員の皆さまには、これまでの有識者等会議を振り返っていただいて、それぞれのまとめ・総括として、名古屋市が設置する市立夜間中学への思い、期待をお話しいただきたいと思っております。その際、前回の最後に話題になりました、校名の案について、もし考えていただいていたら、それも発表していただいて、今後の夜間中学に対する思い、期待を順番にお話しいただければと思います。時間がだいぶ押してきていますので、1人2～3分程度でお願いできますでしょうか。では、椎名委員からお願いします。</p>
<p>椎名委員</p>	<p>皆さま、4回にわたりありがとうございます。名古屋で新しい学校をつくるという、このような機会に関わらせていただいたことをまずは御礼申し上げます。私のような詳しい事情も知らぬ者が理想ばかりを述べ立てていたような感じで大変申し訳ない気持ちがあって、名古屋の学校をつくるというときに、この場でどういうコメントをしたらよいかということにとっても悩み考えておりました。しかし、何よりも委員の先生方、皆さまのいろいろなコメントや学校に対する考え方、スタンス、どういった問題が出てくるのかというところで、幅広い視点から学校づくりに向けての熱い意見をお聞きすることができて、ますます令和7年度に向けて、本当にすてきな学校ができるのではないかとわくわくしながら参加させていただきました。</p> <p>多様性というところから、私の役割としては、日本語に関わる支援の視点をお話しさせていただきましたけれども、そういう方たちだけではなくて、もちろん高年層の方々が生徒さんとして入ってくるケースもあります。そうしたときに世代や環境、ルーツを越えたいろいろな伝え合いがこの学校で実現していけば、名古屋らしい教育の場の実現につながっていくのだろうと思いました。</p> <p>3月中旬から4月中旬に行ったニーズ調査アンケートを見ていたら、アンケートの回答の中に、教科の学習よりも、仲間と共に学ぶという理由で学校に行きたいと書かれていた記述がありました。やはりそこが本当に大事なところなのだろうか、共に学ぶことによって生きる力になっていくということ、生徒さんたちが感じてくれるような学校がいいと思いました。</p> <p>そういったアンケートの記述も踏まえまして、学校の名前の案をお出しいたします。私は方言学もやっております、名古屋の方言といいますと「もやい」とか「もやう」という言葉があって、いろいろなセンターやホールなど、集まる場所の名前にも採用されています。「もやう」というのはただ分配する意味だけではなくて、分かち合うというか、シェアするというような意味合いがある「もやう」という動詞で、いろいろな形で全国に方言として散らばっているのですが、名古屋圏方言だと「もうやい」とか「おもやい」とか、そういう語形があると書籍で見ました。実際に使われているかは</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>分からないですけれども、「こ」を付けて「もうやっこ」とか、いろいろなバリエーションがあると思うのですが、響きとして「おもやい」という語がすごく私は気に入って、柔らかくていいなと思いました。「思いやり」という語とも似ているし、「もやう」という意味も入っているので、「名古屋おもやい中学校」などすてきだなと思いました。これからクラスのみんなで主役になりながら分かち合う、伝え合うというようなことを通して、これからの社会とのつながり、生きるスキルをみんな楽しんで分かち合っていくような学校ができればと思いました。以上です。</p>
岡田座長	<p>ありがとうございます。それでは、座席の順番をお願いします。</p>
森純子委員	<p>現在中学夜間学級に関わらせていただいておりますが、実は二十数年前に夜間学級に関わっている先輩方の話を聞いて、その頃は高齢の方が多かったので、そういう方との関わりのお話を聞いて、いいなと。すごく自分はやりたいな、そこで教えたいなというふうに思っていて、実際教える機会を頂き、それはとても幸せな時間でした。現職を退いた後も、またこうやって中学夜間学級に関わらせていただいて、本当に目の前の生徒たち、今は外国の子たちがほとんどで、しかも10代、20代の生徒がほぼ半数の状態、自分が関わっていたときは随分様子が変わっているのですけれども、変わらないのは生徒たちの意欲。学びたい、知りたい、分かりたいという意欲がすごくあるところです。授業中でも、最近をよくいろいろなマスコミの報道の、カメラが入ったりするのですけれども、多分、昼間の生徒ですとそれが気になって気になってしょうがないところがありますが、全然普段と変わらず授業を受けていたり、他の見学の方がみえても、それこそ先ほど椎名先生が言われたように、携帯で画面を写すといろいろとその意味が出てきたり、漢字が出てきたりというのを使いながら、一生懸命自分の勉強をしています。</p> <p>面接のときをお願いしたいのが、その意欲をしっかり聞いていただきたいということと、ちゃんと3年間毎日来るということが続けられるかどうかということもしっかり確認していただきたいと思います。特に不登校などで学び直しをするために来ている生徒は、自分が中学校のときの友達との関わりとは違う、大人としての関わりをしているので、すごく生き生きと、伸び伸びと変わっていった生徒もいますけれども、やはり4月、5月ぐらいに、ちょっと自分が体調を崩して休んでしまったり、授業で分からないところが出てきたりするとその教科を休むとか、病気になって次の授業が分からないから出づらくなるとか、そういうことで、結局学校に行くチャンスや行きたいという気持ちをもって来ても、それを崩してしまうので、その辺りの、何があってもちゃんと頑張るという意志。先ほど先生にも覚悟が必要だと言いましたけれども、来る生徒もやはり覚悟をもってきちんと通ってほしいということ、しっかり面接のところで確認していただきたいと思います。そして、学習に対して意欲をもって来ている生徒の思いを大切にして、スタート時の意欲を継続させるような学校になるといいと思っています。</p> <p>財団の夜間学級に通っている生徒たちに聞くと、先ほどの話とかアンケートにも出てきていますけれども、学習というよりも、みんなと一緒に何かをしたい。行事とか、みんなと一緒に何かを作るとか、それぞれの国の郷土のものを持ち寄って食べたりしたいという声も聞こえてきます。今はものを食べたりするのはいろいろ制限があるので難しいのですけれども、結局いろいろな関わりをもちたいと思っています。高校進学を目指している生徒も、高校で何をしたいかという、修学旅行に行っていないから修学旅行に行きたい。だから、修学旅行がない通信制の学校はちょっと行きたくないと言っている生徒もいます。キャンプにも行きたいと言っているのも、学校の中でもいろいろな行事が充実していると、学校に来た喜びを感じさせることができ</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>るのかなと思っています。</p> <p>今来てくださっている先生方も、最初はやはり手探りだったのですけれども、授業の内容がよく分かるようにプリントを工夫したり、ポイントを絞った授業や、映像を見せたりして工夫していただいているので、すごく感謝しています。先ほど、先生たちに夜間中学に赴任する事を伝える時に、今まで中学夜間学級に関わった先生なども候補に入れていただけると、夜間学級の様子なども分かっているのかなと思いました。</p> <p>学校名は、名古屋にできる学校なので、「まるはち中学校」とか、「名古屋中学校」とか、しゃちがあるので「金鯪(きんしゃち)中学校」とか「金鯪(きんこ)中学校」とかを考えました。あとは名古屋の花とか名古屋の木とかあったのですが、名古屋の花はユリで花言葉が「純粋」、木はクスノキですが、楠中学校は実際にあるものですから、それはちょっとどうかと思いました。本当に意欲のある子どもたちが、楽しい思い出やいい経験ができる学校になるといいと思っています。本当にありがとうございました。</p>
西川委員	<p>先に学校名なのですが、第1希望は、生徒が主役の学校なので、生徒が決める。なので、先ほどスケジュールのところで、パブリックコメントで学校名公募と言われ、公募もすごくいいのですが、令和7年4月まで待って、4月に集まった子どもたちが自分たちの学校名を決める。これこそ、僕などが考えるより、生徒が主役の学校の象徴になるのではないかと思います。でも、それだけ言うと言いつ放しで無責任なので、一応ない知恵を絞り、例えば、新しいことが始まるという意味の黎明期の黎明の漢字をもじって、令和に新しい学校が名古屋にできるの、令和の令に名古屋の名を当てて「令名中学校」。ちょっと格好良すぎるかもしれませんが、ない知恵を絞りました。</p> <p>今回、4回にわたってこの会議に参加させていただきました。保護者としてPTAに関わるようになって10年ちょっと過ぎました。会議の途中で何度も申し上げたとおり、民間教育という立場で塾をやって20年をちょっと超えたところに来ています。自分の中で、PTA活動や保護者として、それから塾で生徒たちに関わる者として、「全ては子どもたちのために」というキーワードを一つの軸にしてずっとやってきています。本当に全ては子どもたちのためにということで、自分なりに精いっぱい勉強しながらここまでやってきているし、これからもやっていこうと思っているのですが、今回こういった機会を与えていただいて、夜間中学ということで、多様なニーズがあることを改めて自分の不勉強さも含めて勉強させていただいたというのが感想です。自分の子どもや自分の地域に住んでいる子どもたち、自分の塾に通ってくれている子どもたちを指して、子どもたちのためにと思ってやってきたけれども、もっと多様な子どもたちがいるし、多様な学びがあるし、もしかしたら子どもという捉え方が、この夜間中学の会に参加して、年齢がもっと幅広いのかもしれないしというようなことも、僕自身、勉強させていただきました。</p> <p>そんな思いで自分はこの10年、20年、教育に関わることをやってきたところで今回の機会をいただきましたので、皆さまとは全然立場が違うというか、民間だったり、それから保護者という意味で、教育委員会のことや先生たちのお仕事のことが全然分からず、失礼なことも含めて突拍子もないことを申し上げたことはおわびを申し上げながら、少しでも役に立てたかなというふうに思っております。ありがとうございました。</p>
藤本委員	<p>4回の会議、本当にありがとうございました。かなりこだわりが強いところがあって、引かずに事務局を困らせたこともあったかと思います。ただ、いいものをつくりたい、子どもたちのためにすてきな学校をつくりたいとい</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>う思いは皆さん共通だと思います。皆さんが言われたところにつながりますが、やはり多様性というのが今回の夜間中学校のキーワードかなと思うし、そこで学ぶ生徒たちが主体的に学ぶことができれば、名古屋が目指す教育に一番近づくことにもなっていくのかなと思います。これから先、事務局が一番大変だと思いますが、しっかりと準備をしていただいて、ぜひ、いいものをつくっていただきたい。つくって、育った生徒たち、及び育てた教員がまた昼間の学校に戻ってくることで、より良い名古屋の教育を進めることにもなるかなと思うので、いいものになることも改めて期待しておりますので、ぜひよろしくお願ひします。</p> <p>校名の方は公募ということなので、私は辞退させていただきます。ありがとうございました。</p>
森義裕委員	<p>お疲れ様でした。様々な立場の方と意見を交流することで、本当に自分自身も勉強になった4回の会だったなと思います。ありがとうございました。自分は教職員の立場でいろいろ意見を言わせていただきましたが、藤本先生も言われたのですけれども、事務局を含めて、本当に生徒にとっていい学校をつくりたいという共通の思いがあると思いますので、令和7年4月にはそのような学校ができるといいなと思っています。</p> <p>校名ですが、目指す学校として多様性を尊重するというのもありましたので、そういった意味も込めて、平仮名で「名古屋市立なないろ中学校」、「なないろ」は虹です。多様な生徒が集うということや、これからとこれまでをつなぐという架け橋的な意味も含めて、あと明るいイメージもあるかなということで「なないろ中学校」を考えました。あともう1個。あおなみ線が近いので、「あおなみ中学校」もなかなかいいかなと。「あお」は青春の青です。「なみ」は、それが押し寄せるというような意味で、青春をもう一度味わうというような意味も込めて、いいかなと思いました。ありがとうございました。</p>
大川委員	<p>半分事務局、半分委員という形の微妙な立場で参加させていただきましたが、個人的には本当に新しい世界が広がったと思います。この会議に参加させていただいて、そして夜間中学のいろいろな取り組みを知るにつれ、今まで知らなかったことが非常に多いと思いました。知れば知るほど、やはり夜間中学の学びは学びの原点でもありますし、これからの名古屋の学びを変えていく存在にもなると思いますし、日本の学びを変えていく存在になると思いますので、そういった点で、非常にやりがいのあるこのことに携われて幸せだなと思いました。</p> <p>学校名の案として、個人的には、やはり多様性を尊重するというので、少し堅いですが、共に生きるということで「笹島共生中学校」というのを考えました。</p>
岡田座長	<p>皆さん、ありがとうございました。私もこの4回、関わらせていただいて、皆さんからいろいろな学びがありました。ありがとうございました。最初に私がお話しさせてもらった中で、この夜間中学校をつくることについて、今まで学ぶことができなかった人のための学びを保障することは当然なので、それ以外にも、名古屋市自体の教育をより良いものにするというお話をさせていただきました。今まで皆さんにお話ししていただいた多様性もその一つです。インクルーシブ教育をもっと広く捉えることができるのではないかと思います。今、日本のインクルーシブ教育というと、特別支援学級の子どもと普通学級の子どもと一緒に学んで、お互いに違いを認め合おうという内容の教育ですが、ユネスコが提唱しているものは、もっと広くインクルーシブ教育を捉えていまして、既存の教育システムに子どもたちを合わせる教育ではなくて、一人一人の子どものニーズに教育シ</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>STEM自体を合わせていく、いわゆる万人のための教育というのが、ユネスコが提唱するインクルーシブ教育なのですね。全国の夜間中学校では、一人一人のニーズに合わせた教育を今やっています。それを一般の昼間の学校の子どもたちの教育にも普遍化していけないだろうかと考えています。</p> <p>私がこの名古屋市に来て、イエナプランのいいところ取りをしている学校ということで山吹小学校を視察させていただきましたけれども、非常に参考になりました。すてきな教育をされているなと思いました。ですから、あのような教育や授業の在り方も含めて、今後、この夜間中学校にも取り入れることによって、一人一人のニーズに合わせる、個別最適な学びをやっていく。そして、多様な夜間中学の生徒だからこそ、協働的な学びをしたらすごく面白い授業が展開できるのではないかと思います。そういう可能性が、この夜間中学校にはあり、どんどん膨らんでいくのではないかと思います。</p> <p>それと、中学夜間学級の森先生が先ほどおっしゃっていたように、勉強だけではないと。学校生活を取り戻したいという方もたくさんいらっしゃいます。それが自分の居場所になり、学校での生活、生きることへの充実感にもつながってくると思うのです。</p> <p>学校名なのですけれども、やはり居場所というのは大事にしていきたいということで、「なごみ」というのを一つのキーワードにしました。昭和の和と書いてなごみと読んで、「和中学校」もいいかなと。それから、星空の下に集まって和んで一緒に勉強するというので、星の和と書いて「星和中学校」とか「星和学園」。あともう一つ「和学園」というのを考えたのですけれども、学園になると連続性があるので、「和学館」、学ぶ館の中学校というのも面白いかなと思いました。それは音読みしてワガクというともた違う意味になるので、なごみという呼び方をしたらどうかと思いました。とにかく、ここに通う生徒の皆さんの居場所と学び、そこから生きる喜びにつなげていっていただけたらなと思います。</p> <p>この4回、皆さんありがとうございました。大変お疲れ様でした。本日の議事は以上にさせていただきます。</p> <p>進行を事務局へお返しします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。事務局より確認、諸連絡をいたします。本日の会議で事務局提案の有識者等会議のまとめ案に対しまして、不登校になっている学齢生徒への支援や教職員への広報、研修会、教職員の確保についてご意見をいただきました。本日いただいた意見につきましては、まとめの中で反映していきたいと考えております。また、今回の議事録については、今までと同様に後日メールで送付させていただきますので、ご自身の発言部分を確認していただき、指定した日までにメールで返信していただければと思います。それでは、最後に事務局の新しい学校づくり推進室長よりごあいさつ申し上げます。</p>
事務局	<p>委員の皆さま方から十分に最後の言葉をいただいた後ですので、簡単にお礼の言葉だけ申し上げさせていただきます。今年の3月にこの会議を立ち上げさせていただいて、ここまでの回、われわれ事務局の方からお出しする素案は粗い部分もありました。委員の皆さま方から、様々な専門的な見地や、様々な角度からのご指摘をいただいて、こういった形で最終的なまとめをさせていただくことができたと思っています。大変感謝申し上げます。いただいたご意見を踏まえ、これから名古屋市として、教育機会確保法成立後、初となる夜間中学の取り組みについて、他の学校にもいい影響を与えるような学校となるよう、この機会を十分に生かしたいということで、われわれ職員一同、やりがいをもってこの仕事に取り組んでいきたいと考えております。</p>

第4回市立夜間中学の設置に関する有識者等会議 議事録

発言者	内容
	<p>最後になりますが、会の運営にご尽力いただきました岡田座長をはじめ委員の皆さま方には深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。引き続き、この学校の整備に向けて精いっぱい進めてまいりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。</p>
事務局	<p>では、以上をもちまして、市立夜間中学の設置に関する有識者等会議の全てを終わります。ありがとうございました。</p>